


みどりの 

21世紀 地球を、地域を、生活を、  
持続可能な豊かさに

# ニュースレター

# 5

2006  
No.156

日本のフライブルクを創ろう!

## 特集：環境首都へあと一歩！ 第5回 日本の環境首都コンテスト結果報告



3月 石けん工場視察で  
(熊本県水俣市)



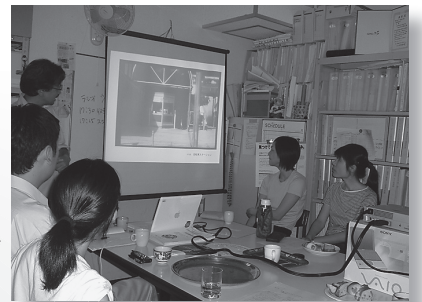
3月 全国ネットワーク会議 (京都市内)



3月 環境首都コンテスト第5回表彰式 (水俣市)



2006年2月 自治体ヒアリング  
(北海道ニセコ町)



2005年7月 勉強会  
「環境まちづくりゼミナール」  
(京都市内)



10月 市区町村長と環境NGOの  
戦略会議 (京都市内)



8月 モデル自治体勉強会 (岐阜県多治見市)



8月 視察 (滋賀県野洲市)



特定非営利活動法人

## 環境市民

Citizens Environmental Foundation - since 1992 -  
<http://www.kankyoshimin.org>

¥100

# みどりの ニュースレター



## No.156

2006年 5月号

Citizens Environmental Foundation



今月の表紙……

1年中休みなくつづく環境首都コンテストは第1位の表彰式でしめくくられます。

## CONTENTS

**特集：環境首都へあと一歩！  
第5回 日本の環境首都コンテスト  
結果報告**…02-07

**とれたて！環境市民 スペシャル！** …08-09  
イベントカレンダー  
旬のぶちメモ  
講演のご案内

**みんなでエコろう！行事案内**…10-11

**1/環境市民 Special**…12-13  
千宗室さん 伝統と環境——守るもの育てるもの

隔月コラム **青き星 碧い風**…14  
第六回 格差社会からの脱却

**みんな集まれ！わいわいひろば**…15  
5月のテーマ：あなたのエコスポット

**今月のありがとう**…16  
新入会員インタビュー・新入会員・寄付他

※「コレため！」と「地球のなかま」はお休みしました。

NEWS LETTER

FEATURED

NEWS LETTER  
FEATURED  
CEF

日本のフライブルクを創ろう！

特集：環境首都へあと一歩！  
第5回 日本の環境首都コンテスト結果報告

環境首都コンテスト全国ネットワーク（主幹事団体・環境市民）が主催する第五回「日本の環境首都コンテスト」の結果がやっと出ました！気になる総合第一位は昨年に引き続き熊本県水俣市。今回の特集では、コンテストの仕組みから第五回の結果の概要、関わった方々の声など盛りだくさんの情報をお届けします。

水俣市 二年連続一位に輝く！  
市長さんからのメッセージ

「日本のフライブルクを創ろう」というテーマで、2001年度から全10回連続開催を予定している環境首都コンテスト。これまで5回実施してきた成果として、「環境首都」を目標に自治体が切磋琢磨する姿勢が明確化し、また基本方針、施策にも本コンテストの内容が採り入れられるようになってきました。ここでは、主に第5回のコンテストの結果概要とその成果、参加自治体の特徴などについて報告します。  
(文/環境市民事務局 風岡 宗人)



## 宮本 勝彬さん (水俣市長)

今回、第5回「日本の環境首都コンテスト」で、昨年に引き続き、水俣市が総合第1位を受賞することができたことに対し、市民と喜びを分かちあうとともに、主催者である環境首都コンテスト全国ネットワークの皆様にお礼申し上げます。

高い評価を得たことは大変光栄であります。同時に「果たして全国1位に見合うだけの、創造的な、環境に軸足を置いたまちづくりに真摯に取り組んでいるか」と、私も自身が問われているような、責任の重さも感じています。

この栄誉は、ひとえに市民の取り組みが認められた結果であり、水俣市への強力なエールであると思っています。

これからも、水俣病を経験した水俣だからこそ、環境にこだわり、環境破壊に加担しない資源循環型の暮らしを築き、市民が安心安全に暮らせる「環境モデル都市」を目指して、様々な環境保全・配慮型の施策を推進していきたいと考えています。そのようなまちづくりをすることこそが、水俣に課せられた役割ではないかと思っています。

# 宮本 勝彬

## 水俣市の回答チェック、ヒアリング等を担当した環境ネットワークくまもと（環境首都コンテスト全国ネットワーク構成団体）からのメッセージ



## 宮北 隆志さん

(環境ネットワークくまもと 副代表、  
熊本学園大学 水俣学現地研究センター長)

2006年は、公害の原点としてのミナマタにとって大きな節目となる年です。「水俣病の教訓とは何か」、また「めざすべき環境モデル都市とは何か」が、今あらためて問われています。そのような中で、水俣市が昨年に引き続き総合第1位を獲得したことの意味はきわめて大きいと思います。行政職員、市民グループ、地元企業からの様々な提案を、関係者が互いにきちっと受け止め、その提案を活かし、実行することができる人とネットワークの存在。これが水俣の強みです。しかし、「環境首都」の称号を獲得し、環境・経済・社会の3つの側面において持続可能な水俣を実現していくためには、市民・民間事業者・行政など多様な主体の協働によるさらなる取り組みが必要です。

環境ネットワークくまもとは、環境首都コンテスト全国ネットワークのメンバーとの連携の下、地元のNPOとして持続可能な地域社会の実現に向けて水俣市とともに歩んでいきたいと考えています。

### ●「環境首都」実現に近づく！

今回のコンテストの表彰対象自治体は（右の表）のような結果となりました。上位入賞のためには、単発の事業よりも環境施策を全庁的に推進する「仕組み」づくりが求められます。上位自治体の、よい意味での競争意識は強く、事業の継続にとどまらず、より効果の高い新たな取り組みを生み出していかなければ上位を維持できない状況を呈しています。

本コンテストの質問は、制度の有無とともにその効果の重視、住民のエンパワーメント、住民参画やパートナーシップによる施策推進等の要素の組み込み等、年々進化・深化させており、点数獲得は難しくなっているにも関わらず、全自治体の平均点は245点から273点へと前回に比べ28点上昇しました。また、総合10位までの平均点が前回に比べ、459点から505点へと46点上昇しています（次頁図1）。このことから「環境首都」\*1の実現へ確実に近づいているといえます。

\*1 コンテストでは以下の4つをすべて満たした自治体に「環境首都」の称号を贈ることにしています。

- 1 総合で第1位であること
- 2 総合点が満点の70%以上であること
- 3 15項目中、3項目以上が満点の90%以上の点数を得ていること
- 4 15項目中、満点の50%以下の点数の項目が3項目以下であること

#### ●総合順位（上位10位）

順位	自治体名	人口
第1位	水俣市（熊本県）	29,824
第2位	新城市（愛知県）	52,888
第3位	安城市（愛知県）	171,811
第4位	多治見市（岐阜県）	106,208
第5位	熊本市（熊本県）	672,114
第6位	尼崎市（兵庫県）	462,081
第7位	板橋区（東京都）	513,575
第8位	日田市（大分県）	75,767
第9位	飯田市（長野県）	108,160
第10位	大和市（神奈川県）	221,603

#### ●部門別表彰（上位1位）

##### 地球温暖化防止部門

##### ○第1群（人口2万人未満）

第1位 ニツ井町（秋田県）

##### ○第2群（人口2万人以上、5万人未満）

第1位 水俣市（熊本県）

##### ○第3群（人口5万人以上、10万人未満）

第1位 新城市（愛知県）

##### ○第4群（人口10万人以上、30万人未満）

第1位 宇部市（山口県）

##### ○第5群（政令指定都市をのぞく、人口30万人以上）

第1位 熊本市（熊本県）

##### 住民参画部門

##### ○第1群（人口2万人未満）

第1位 ニセコ町（北海道）

##### ○第2群（人口2万人以上、5万人未満）

第1位 水俣市（熊本県）

##### ○第3群（人口5万人以上、10万人未満）

第1位 新城市（愛知県）

##### ○第4群（人口10万人以上、30万人未満）

第1位 多治見市（岐阜県）

##### ○第5群（政令指定都市をのぞく、人口30万人以上）

第1位 熊本市（熊本県）

注：人口別第6群（政令指定都市）は、参加が1自治体のみであったため、今回は人口規模別の表彰を取りやめさせていただきました。

#### ●人口規模別順位（上位2位）

##### ○第1群（人口2万人未満）

第1位	ニセコ町（北海道）
第2位	ニツ井町（秋田県）

##### ○第2群（人口2万人以上、5万人未満）

第1位	水俣市（熊本県）
第2位	内子町（愛媛県）

##### ○第3群（人口5万人以上、10万人未満）

第1位	新城市（愛知県）
第2位	日田市（大分県）

##### ○第4群（人口10万人以上、30万人未満）

第1位	安城市（愛知県）
第2位	多治見市（岐阜県）

##### ○第5群（政令指定都市をのぞく、人口30万人以上）

第1位	熊本市（熊本県）
第2位	尼崎市（兵庫県）

#### ●奨励賞

第2群	水俣市（熊本県）
	大野市（福井県）
	本渡市（熊本県）
	長久手町（愛知県）
	野洲市（滋賀県）
第3群	新城市（愛知県）
	志木市（埼玉県）
	福知山市（京都府）
	八幡市（京都府）
	日田市（大分県）
	日進市（愛知県）
	長岡京市（京都府）
第4群	綾瀬市（神奈川県）
	越前市（福井県）
	多治見市（岐阜県）
	飯田市（長野県）
第5群	秦野市（神奈川県）
	藤沢市（神奈川県）
	横須賀市（神奈川県）
	尼崎市（兵庫県）
	倉敷市（岡山県）
	松山市（愛媛県）
	板橋区（東京都）
熊本市（熊本県）	

## ●自治体の目標となり、施策展開に 大きな役割を果たし始めたコンテスト

安城市（愛知県）は総合計画の主目標として環境首都を掲げ、福知山市（京都府）では環境基本計画実行の指標として、本コンテストの10位以内に入ることを規定しています。新城市（愛知県）、飯田市（長野県）は、市長が環境首都をめざすことを明言され、飯田市は「挑戦環境首都への道」という座談会を、新城市長を招いて開催しました。また水俣市、安城市の市長も環境首都を明確に目標とすると発言されています。板橋区（東京都）は本コンテストの回答を区長がすべて確認したうえで提出し、二ツ井町（秋田県）は、能代市との合併の条件として、合併後も「環境首都」をめざすことを掲げています。さらに安城市、新城市はコンテストメンバーを講師に、職員研修を兼ねたコンテストの詳しい報告会を連続で開催することを決めるなど、多くの自治体が本コンテストの結果を分析し、取り組みの弱かった施策を見直したり、「先進事例集」を参考に、より優れた施策を組み立てたりするようもなってきました。これらの例からも、首長および自治体が切磋琢磨して環境自治体づくりをめざすという、本コンテスト本来の趣旨が自治体に浸透してきていると言えます。

## ●総合1位を獲得した水俣市

水俣市は本コンテストに5回連続で参加し、昨年に引き続き2年連続第1位を獲得しました。総合得点は1020点満点中、606点。B「環境マネジメントシステム」とI「自然環境の保全と回復」\*<sup>2</sup>で90%以上の得点率、逆に得点率50%以下の項目は4つと、ネットワークの掲げる「環境首都の条件」にもう少しというところまで来ています。先進事例も過去5年間で参加自治体中最も多い15事例が選定されています。

水俣市の優れた点は以下のようにまとめられます。(1) 環境、教育、農林、観光、産業などの部局にまたがる多面的な取り組み、(2) 取り組みの継続性、(3)

図1 各回における全参加自治体と  
上位10位の平均点の推移（点）

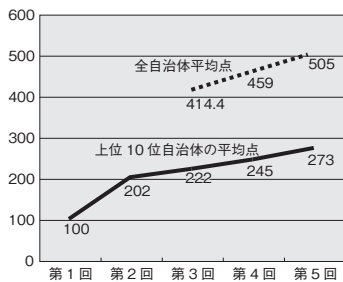
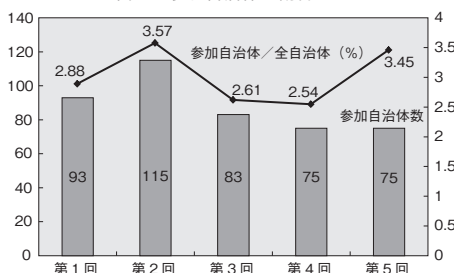


図3 参加自治体数の推移と全自治体数に  
占める参加自治体の割合



行政、市民団体、地元企業からの様々な提案を活かし、実行することができる人とネットワークの存在、(4) 企業の「拡大生産者責任」を明確にし、協働で地域の生活に根ざした環境負荷削減と生活文化を育む取り組みの展開。水俣病に正面から向き合い、自らの暮らしのあり方や生き方、さらには社会のあり方を問い続けてきた歴史を背景にしたこれらの継続的な仕組みづくりが評価された形となりました。

\*2 質問票は、環境基本条例・アジェンダ・環境基本計画、マネジメントシステム、情報公開、率先行動、自治体交流、政策能力向上・環境行政の総合化、住民力の向上と協働、環境学習、自然環境、水循環、景観と公園、交通政策、地球温暖化防止、ごみ減量、環境に配慮した産業の15項目、84～86問（自治体が回答する質問数）で構成されています。

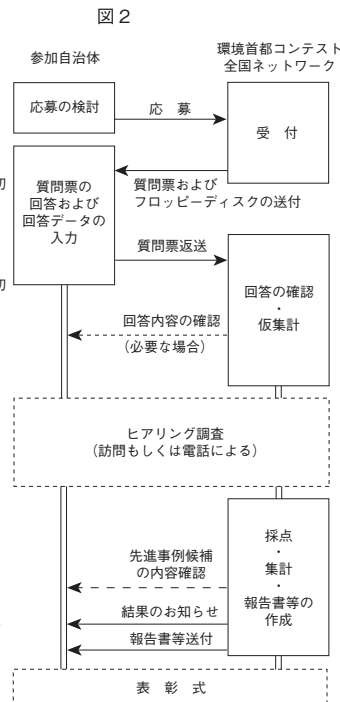
## ●環境首都コンテストの目的と仕組み

環境首都コンテストは、自治体のよい取り組みを評価（プラス評価）します。これにより、自治体間に切磋琢磨する仕組みを創りだし、自治体の環境施策の総合的な推進を加速化します。そして、国内に具体的な目標になる自治体が出現することにより、全国の自治体に波及的な環境自治体創出効果を生み出そうとしています。同時に、コンテストに参加した自治体は自己と他の自治体の取り組み状況を総合的に比較、評価、見直しをすることができます。また、参加自治体間、自治体とNGO、住民との交流、対話を促進することができます。

自治体はコンテストに自由意思で応募します。その自治体に「質問票」を送付し、自治体は回答を提出します。それを何重にもチェックし点数化、上位自治体の表彰を行います（図2）。

## ●自治体の参加状況

今回の参加自治体総数は前回と同数の75自治体となりました。全5回の参加自治体総数は市町村合併による影響もあり、第1回が93、第2回が115、第3回が83、第4回が75と、第2回を頂点に減少傾向にありました。ただし、図3のように、合併による全国の自治体数自体の減少に伴い、自治体総数に占める本コンテスト参加自治体の割合は前回よりかなり増加しています（参加自治体一覧は本誌5ページ参照）。また、第1回から第5回までの5年連続参加は24自治体、初参加は10自治体となりました。



※日本の環境首都コンテストは独立行政法人環境再生保全機構の地球環境基金より助成をいただいで実施しています。

# 環境首都コンテストを支えた環境市民スタッフたち

環境首都コンテストの主幹事を務める環境市民では、役割や責任を分担しながら、たくさんのボランティアスタッフが、担当自治体の回答チェックから全体のコーディネートまでさまざまな作業を担いました。ここではいろんな思い、関心を持ちながらも目的を共有し、プロジェクトを進めてきたスタッフの声をお届けします。



## 杉原 知宏さん

関われば関わるほど、  
楽しくなる環境首都コンテスト

僕にとって、環境首都コンテストはボランティアへの入り口でした。そして、関われば関わるほど知識欲をかきたてる興味深いものでした。

東京の大学に編入して環境政策を勉強しています。環境首都コンテストで実際に見たことを大学で学ぶということ。相互作用で、どちらも楽しく、また「なるほど」と思うことも多いです。

これから大学の勉強もまとめの段階に入ります。自分なりの結論を出すこと、これは大変だけれど、僕の人生にとっても意義深いものになると思っています。



## 荒川 萌さん

小さな頃の経験が、  
今の活動のきっかけに

小さい頃、自然環境に恵まれた地域に住んでいたこともあり、気がついたら「環境」について考えることが好きになっていました。コンテストで印象に残っているのは、第1位の水俣市を訪れ、かつて水俣病で汚染された海を見たこと。私が見た現在の水俣の海は、とても青かった！これが、水俣病解決のために闘ってきた人々の努力の結晶だと思いました。また活動を通じ、自治体の環境施策を知ることができたと同時に、「まだ日本は捨てたもんじゃない、明るい未来が築けるだろう」と確信しました。



## 宮永 健太郎さん

気がついたら  
まちづくり大好き人間に

「難しそうなことをやってるなぁ」とか「とっつきにくい」とか言われてしまうこともある私たちですが、そんなことはありません。今でこそメンバーは、地域や自治体の環境まちづくり施策に関心を持っていますが、はじめから知識があったメンバーなんて誰一人いませんでした。関心といっても漠然としたものでした。それが、首都コンテストに関わることを通じて、気がついたらまちづくり大好き人間に変わっているのです。



## 平田 円さん

生物を通して首都コンテストを見る

私の夢は、ある地域の生態調査などを通して、生物の個体レベルまで注目したような保護をしたいと思っています。生物には地域性、個体差などがあるからです。これらは、まちづくりに関しても同様ではないでしょうか。しかし、『Think Globally, Act Locally』と言われるように、大きい視点で捕えることも重要だと思います。



## 大塚 千夏さん

首都コンテストを通して  
さまざまな人と出会えるのが楽しみ

もともと環境問題に関心があったわけではなかったのですが、大学のまちづくりゼミがきっかけでエコシティー研究会に興味をもち、「環境」という言葉に反応するようになりました。環境市民との出会いがこの1年を大きく変えたと思います。何より、自分の信念をもって活動している人々と話をするのは本当に楽しいです。



## 山田 岳さん

これからより高い専門性が必要

修士論文の執筆過程で住民参加による環境・防災まちづくりの「実態」を目の当たりにしたこともあって、コンテストでは「住民との協働」に対しては問題意識をもって臨んでいます。自治体へのヒアリング調査では、環境部局の人たちが孤軍奮闘されている姿が印象に残りました。環境首都をめざす自治体の気運が高まるにつれて、私たちの側にも高い専門性を身につける必要を感じています。



## 伊藤 浩樹さん

ヒアリングでの貴重な体験

コンテストに関わり始めた最初の冬、ヒアリングで、熱心な職員と、その職員と一緒にまちづくりを進めている元気な60代の住民に出会いました。時には自治体に対してかなり厳しいことも言いつつ、自治体の職員以上にその自治体の施策を評価するその住民の姿に感動しました。同時に私自身が「パートナーシップとは？ 住民参画とは？」を考え始めるきっかけとなりました。



## 杉山 陽絵さん

視野が広がりました

「環境」については関心があったものの、「まちづくり」や「住民参画」、「協働」という視点を持っていなかったのが、環境首都コンテストとの出会いは衝撃的でした。自分が住んでいる地域のこと、行政がやっていることにも関心が向くようになり、視野が大きく広がりました。コンテストに関わったことで、興味を持てる分野も広がり、今まで見えていなかったものがたくさん見えてくるようになった気がします。

# 自治体とNGOの声をお届けします!

今回のコンテストには全国から勇気ある75自治体の参加を得ました。これらの自治体を、環境首都コンテスト全国ネットワークを構成する11の環境NGOが分担し、回答のチェックからヒアリング調査、採点を担いました。ここでは、全国ネットワーク構成NGOメンバーと参加自治体からいただいた、コンテストや環境施策へ寄せる思いをご紹介します。

## <第5回コンテストに参加した勇気ある75自治体>

(北海道) 石狩市、ニセコ町 (秋田県) ニッ井町 (山形県) 高畠町、遊佐町 (群馬県) 太田市、館林市、草津町 (埼玉県) 川越市、東松山市、志木市 (千葉県) 佐原市 (東京都) 板橋区、練馬区 (神奈川県) 横須賀市、藤沢市、小田原市、秦野市、大和市、伊勢原市、綾瀬市 (石川県) 加賀市 (福井県) 越前市、大野市 (山梨県) 都留市 (長野県) 松本市、岡谷市、飯田市 (岐阜県) 大垣市、多治見市、関市、御嵩町 (静岡県) 磐田市 (愛知県) 岡崎市、瀬戸市、豊川市、碧南市、安城市、新城市、日進市、田原市、長久手町 (三重県) 伊勢市、桑名市 (滋賀県) 近江八幡市、甲賀市、野洲市、高島市 (京都府) 福知山市、長岡京市、八幡市、京丹後市 (大阪府) 吹田市、八尾市 (兵庫県) 尼崎市 (岡山県) 倉敷市、津山市 (広島県) 広島市 (山口県) 宇部市、周南市 (徳島県) 上勝町、佐那河内村 (愛媛県) 松山市、新居浜市、内子町 (福岡県) 大川市、大木町 (長崎県) 長崎市 (熊本県) 熊本市、荒尾市、水俣市、本渡市 (大分県) 日田市 (宮崎県) 日向市、諸塚村 (以上75自治体、自治体コード順)

## <環境首都コンテスト全国ネットワーク>

**構成団体** \*主に担当地域の自治体への働きかけやコンテスト全体の運営に深く関わる団体。( )内は担当地域

- 環境エネルギー政策研究所 (東京都)
- 環境市民 (北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県)
- ふるさと環境市民 (千葉県、神奈川県)
- 未来の子 (岡山県、広島県、山口県)
- やまなしエコネットワーク (栃木県、群馬県、埼玉県、山梨県)
- 暮らしを見つめる会 (香川県、愛媛県、高知県)
- 環境市民・東海 (富山県、岐阜県、静岡県、愛知県)
- 中部リサイクル運動市民の会 (長野県、愛知県、三重県)

**協力団体** \*主に地元自治体への参加呼びかけに協力する団体

- 住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会 (東京都三鷹市)
- エコネット近畿 (大阪府)
- かながわアジェンダ推進センター (神奈川県大和市)
- エコサポート TGAL (鹿児島市)



### 原 育美さん

(環境ネットワークくまもと 副代表)

前回1位を獲得した水俣市を担当する立場として、厳正な回答チェックや説得力のある意見交換をしなければ、という緊張感が常にありました。表彰式に参加して、我々ネットワークと自治体、住民が持続可能な地域社会づくりに向けたそれぞれの取り組みの意義や影響、効果などを再認識しあうのが、このコンテストの役割なのだ改めて実感しました。ただ、我々がどれだけ真剣にこの活動に取り組んでいるのか、自治体にはまだ伝わりきっていないと感じます。コンテストの評価や結果をもっと分析し、次につなげていってほしい。少なくとも庁内、住民、地域NPOなどに自治体の目指す方向をオープンにし、ともに環境施策について検証をすすめてほしいと思います。



### 黒木 倫子さん

(宮崎県 諸塚村 企画課 主事補)

今回初めて参加しました。参加のきっかけは、全国ネットワークからの強いプッシュがあったことでしょうか。コンテストの結果そのものを見ると、まだまだできていないところもたくさんあります。しかし、私たちにとっての目の前にある課題は、森を活かしつつ守っていくこと。その結果として環境保全につながっていくと考えています。コンテストに参加する中で、そのつながりがより鮮明に意識できるようになったと思います。今回の結果をバネにして、今後目に見える成果を出していきたいです。このコンテストへは継続的に参加しなければと思っています。



### 内田 洋子さん

(暮らしを見つめる会 代表)

コンテストで得られた情報やネットワークを利用し、自治体の職員研修を行いました。また参加自治体の中には、私たちとパートナーシップで事業を始めたところもあります。四国の自治体にもコンテストへの認知が広がり、位置づけが確固たるものになってきたと実感しています。

自治体が、自分の弱点に気づき始めた。その弱点の克服を今後お手伝いしたいと思います。



○は自治体  
●はNGO



## たく 山下 塚さん

(京丹後市 生活環境部  
環境推進課 主事)

「環境施策を考案するための多くの有益な情報を得ることができそう」という軽い気持ちでコンテストに応募しましたが、まさかあれほど厚く内容の濃い質問票が送られてくるとは夢にも思いませんでした。ただ、大変な回答作業をする中で、他部署の施策で環境に関連しているものが多くあることを知ったことや、NGOからのヒアリングを環境意識の高い市民と一緒に受けることで気づきを得られたことは、これから仕事をする上で大変勉強になるものでした。コンテストの結果を踏まえ、自然資源や人的資源などに恵まれた京丹後市だからこそできる「唯一無二の環境先進地づくり」をめざしてがんばりたいと思います。



## 原田 正さん

(北海道 ニセコ町 町民生活課 課長)

今ではどの自治体も環境対策をせずには通りません。しかし各自治体の取り組みに温度差があるのもまた事実。コンテストに参加し、第三者の評価を得ることで自分の自治体の全国における位置づけがわかることは意義があります。ただ、コンテストの価値や意義を高めるためにも、もっと多くの自治体に参加して欲しいですね。首長がコンテストへの理解を深めるような働きかけや、自治体にとってのメリットもきちんと打ち出していくことも大切だと思います。それに、コンテストを通じて自治体間の情報交流を盛んにすることが環境施策のステップアップにつながっていくのではないのでしょうか。



## 村上 奈美子さん

(山形県 高島町 住民生活課 環境対策室 環境推進主査)

回答は大変な作業でしたが、質問、選択肢自体が政策提案にもなっているので、新たに気づかされる面も多くありました。また、質問内容も年々高度になっていますね。全国ネットワークのメンバーや参加自治体の担当者の方々と、苦労や進むべき方向などを分かち合える場があればと思っています。みんなで話合って元気ももらって、わが町に戻ってからも「がんばろう!」と思える場があったらいいなと思っています。大きい声では言えませんが、「目指すは環境首都」。来年も頑張ります!



## 中村 孝さん

(板橋区 資源環境部 環境保全課 管理係)

第4回コンテストまでは、部長決裁により回答・資料作成を行い、結果を庁議\*へ報告していましたが、第5回の参加にあたり、区長から「回答内容を事前に見せるように」との指示があり、区長自ら提出資料を含めた提出書類一切を確認し、決裁しています。次年度はさらに上位を目指すように、との厳しい指示もあり、今後さらなるコンテストの質問内容の分析をすすめていきます。

\*庁議：首長助役や各部長などで構成される、行政運営の基本方針や重要施策を審議決定するとともに、各部局間相互の総合調整を行う会議。

(補足) 環境首都コンテストの回答を自治体首長自らがすべてチェックし、決裁している自治体はいまのところ板橋区以外ありません。区長の環境施策への意気込みが評価され、「先進事例集」にも掲載されました。(編集部)



## 大林 ミカさん

(環境エネルギー政策研究所 副所長)

非常に奥の深い詳細な調査、評価を行っているこのコンテストが、私たち市民の側の力を増していくことで、今後横への広がりを持ち、より多くの自治体に参加することを望んでいます。コンテスト参加自治体の中に「自然エネルギーでまちづくりや地域振興」を行う方向性を持つ自治体が出てきており、「分散型自然エネルギーが、福祉や経済も含んだ持続可能な地域をつくる」という視点から、今後の動向に注目しています。



## 平田 勇夫さん

(環境市民・東海 事務局長)

これまで5回のコンテストにかかわり、自治体担当者と一定の信頼関係ができたと感じています。いろんな人との出会いもうれしかった。担当する約20自治体には、フォローアップのためのレクチャーを続けています。今後もそれぞれの自治体の課題をともに解決していきたいと思っています。すべての参加自治体が「環境首都」をめざしてほしい。しかし、まだまだ地域の総合的な課題に取り組むNPOが育っていません。それぞれの自治体にとって「環境首都とはどんなまちなのか」を自治体、住民、NPOが真剣に議論しあいながら、一步一步すすんでいってほしいと願っています。



## もりと 小西 盛登さん

(長野県 飯田市 水道環境部 環境課 環境政策係長)

コンテストに参加する一番の動機は、NGOが第三者的に本市の取り組みを点検してくれることです。順位も大切ですが、市民の目線で環境活動に取り組むためのよい機会となっていると思います。

今でも精一杯がんばっているつもりですが、全国的に環境首都をめざして取り組みを進めている自治体も増えているので、よりいっそうがんばらないと、と気を引き締めているところです。

今後の課題は、コンテストの結果、わかった弱点をいかに克服していくかです。ただ、住民とのパートナーシップ型組織の立ち上げなどを通して、その基礎はできつつあると自負しています。今後はその基礎を大切に、形に見える成果を出していきたいです。



～環境市民の今、そしてこれからの活動をお知らせします～

# とれたて! 環境市民 ← スペシャル!



## ローカルアジェンダ 21 推進組織 吹田市の持続可能な社会づくり実現へ向け大きな一歩 「アジェンダ 21 すいた」まもなく誕生!

2005 年度パートナーシップ事業報告：各地の環境基本計画関連

(取材協力 環境市民事務局長 堀 孝弘/文 ニュースレター編集部 有川 真理子)

2005 年度に実施したパートナーシップ事業のうち、特に下記にあげる自治体の環境基本計画に関わる事業の中から、今回は 2) の大阪府吹田市のローカルアジェンダ 21 すいた推進組織の立ち上げ支援についてお伝えいたします。

- 1) 滋賀県野洲市：環境基本計画 策定
- 2) 大阪府吹田市：ローカルアジェンダ 21 すいた推進組織の立ち上げ支援
- 3) 愛知県岡崎市：環境基本計画の見直し事業に参画する人材育成事業
- 4) 兵庫県明石市：環境基本計画の見直し事業に参画する人材育成事業

### ●ローカルアジェンダ 21 って何?

1992 年の地球サミット（環境と開発に関する国連会議）で採択された「アジェンダ 21」（第 28 章）の中で、地域での取り組みが環境問題の解決に向けた重要な要素となるため、地方自治体が持続可能なまちをつかっていくための行動計画「ローカルアジェンダ 21」を作成することの必要性が述べられています。これに基づき、各自治体で、持続可能な社会をどのように実現していくか、具体的な行動計画も策定したものがローカルアジェンダ 21 です。日本では、環境基本計画がローカルアジェンダ 21 に位置づけられることが多いのですが、本来は総合計画のようなものです。

### ●28 の行動計画を含むアジェンダ 21 すいた

吹田市では 2004 年に公募された市民や地域の市民団体や企業、行政の職員など合計 62 人からなる「アジェンダ 21 すいた策定会議」を設置し、2005 年 3 月「アジェンダ 21 すいた」を策定しました。そこには、28 の市民・事業者・行政が取り組む具体的プロジェクトがつくれ、地域のビジョン実現の道筋・ステップを明らかにされています。

例えば、交通に関しては、地域の交通事情を調べ、問題を抽出、交通問題の改善案をつくったり、パネル展示などで市民に普及啓発活動を行うなど広く社会の参画、支持を得ながら理想とする交通システムをつかっていくといった道筋です。

### ●推進組織のイメージも違った!

2005 年度は、これらのプロジェクトを実施、進行管理す

る推進組織をつくるため、策定委員でもあった有志十数人で組織設立にむけた会合がもたれました。そこでは、組織の形態や役割、会則の作成や会費制度などを検討しました。

推進組織といっても、その組織のイメージも、市民とのかかわりや行政が担う仕事のイメージも、人によって違いますし、時には激論もありました。それらの主張を理解し、調整しながら合意形成をはかっていく上で、これまでの地域実践活動や、様々な自治体とのパートナーシップ事業を経験した環境市民のコーディネーター経験がいきてきます。

### ●地域の人から自ら考え行動する第一歩!

最終的には、「アジェンダ 21 すいた」という組織名で、吹田市役所内に事務局を設置。策定した 5 つの分野のプロジェクトに基づき 5 つの部会（エネルギー、資源、自然、交通、環境教育）を設置し、市民、行政、企業が協働で事業を進めていくことになりました。2006 年 3 月 23 日には市民、行政、地元企業、大学関係者らからなる発起人会を実施、2006 年の 5 月には設立総会を行うことになっています。今後も市からの資金補助等はあるものの、資金的にも自立した組織にしていくため、自ら会員を募り、将来的には市以外からの助成金を獲得するなど資金調達も自ら行っていく必要があります。

組織の設立は、地域の人から自ら地域のことを考え行動し、持続可能な社会をつかっていく第一歩です。環境市民の仕事としては推進組織の設立までとなりますが、この後も持続可能な社会づくりにむけた一つの動きとして応援していきたいと思っています。



「アジェンダ 21 すいた推進会議発起人会」の様子（2006 年 3 月 23 日）



# 熊本県水俣市にて 「第5回環境首都コンテスト表彰式」開催

3月末で慌ただしい3月30日、環境首都コンテスト全国ネットワークのメンバーは第5回コンテストの総合第1位に輝いた熊本県水俣市の栄誉を称えるため、全国各地から水俣市に集結しました。桜が咲き誇り、空は青く、風が心地よい、本当に気持ちのよい日和となりました。

表彰式は、「もやい直し」<sup>注1</sup>のための施設「もやい館」で開催されました。会場には水俣市職員、水俣市民、環境マイスター<sup>注2</sup>約60人が集まり、緊張した雰囲気の中での開会となりました。環境ネットワークくまもとの宮北隆志副代表から水俣市の取り組みについての説明を受け、宮本勝彬市長からは「1位の光栄に恥じない取り組みを行いたい」との決意表明がありました。

次の日は水俣市の視察エコツアーです。まずは現在問題になっている産業廃棄物処理場建設予定地へ（写真）。産廃建設に反対されている地元の方の話から、地域を知り、地域を守っていくのはやはりそこに住まう人なのだとすることを強く感じました。また、生ごみの堆肥とアイガモで米作りに取り組む農家で環境マイスターの丸田清隆さんの「自分たちの生活は自分たちで守っていく」という強い決意に感動。最後に水俣エコタウン事業で誘致されたタイヤリサイクルの工場（南九州タイヤリサイクル株式会社）を見学し、大満足の中、一同帰路につきました。（文/大塚 千夏、風岡 宗人）

注1 もやい直し:「もやい(舂)」とは本来船と船をつなぐ縄のこと。水俣では水俣病で壊れた人と人、人と自然の関係回復を「もやい直し」と表現している。

注2 環境マイスター:「マイスター」は、ドイツ語で「職人」という意味。水俣市では、安心安全で環境や健康に配慮したもののづくりを推進していくため、環境や健康にこだわったものづくりをしている職人を「環境マイスター」として現在までに26人を認定している。

謝辞 今回の視察ツアーのコーディネートは、特定非営利活動法人水俣教育旅行プランニングにお願いしました。限られた時間、予算の中で盛りだくさんのプランを練っていただいたことに感謝いたします。



## ミーティング&イベントカレンダー

1日(月)	東海 環境市民 nagoya cafe	午後7:00から(P11)
2日(火)	東海 環境小市民生涯学習講座「西尾市でお茶作り体験」	午前8:00から(P11)
10日(水)	ニュースレター編集部 編集日	午後6:30から
11日(木)	自転車チーム ちゃり民	午後7:00から
16日(火)	シンポジウム これからの「CSR購入」について考える	午後2:00から(P10)
17日(水)	東海 ぼっとらっくばーてい	午後7:00から(P11)
19日(金)	電子かわら版	午後7:00から
23日(火)	ニュースレター編集部 校正日	午後1:30から

※グループ/プロジェクト名のみはミーティングです。  
※「●」は京都事務局までお問い合わせ下さい。

5月 '06

24日(水)	東海 環境小市民生涯学習講座「碧南市で食文化体験」	午前8:00から(P11)
26日(金)	理事会●	みつたまプロジェクト 午後7:00から
27日(土)	今だ! 始めよう環境市民 春のボランティア説明会	午後6:30から(P11)
	大津百町館の見学	午前10:00から(P11)
	自然住宅研究会ミーティング	午後3:00から
31日(水)	ニュースレター発送日	午後1:00から

## 旬のメモ ● vol. 11 ● 5月のカーネーション

あなたの心に季節の窓を。  
旬の話題と暮らし方のヒントをお届けします。

今年の日母の日は5月14日。この日に母親にカーネーションを贈る習慣は20世紀初頭の米国で始まりました。アンナ・ジャーヴィスという女性が亡き母の好んだ白いカーネーションをたむけたことが人びとの感動を呼び議会で祝日として制定。日本には大正時代に伝わりました。元来は胸にカーネーションをつけ母への感謝の

意を表すことになっていましたが、戦後は次第に母に花を贈る習慣になりました。この時期店頭でカーネーションは子どものお小遣いでも買える値段で並びますね。今日では色も驚くほど豊富です! あなたもお母さんの好きな色の花を贈ってみては?

(文/ニュースレター編集部 山形 七日)

### 講演のご案内

※ 一般参加はできませんが下記の講座にも講師を派遣しています。詳しくは京都事務局へお問合せください。

- 17日(水) 交野市 / 「温暖化」 □ 19日(金) 福井市 / 温暖化とグリーンコンシューマー
- 23日(火) 京都市 / 龍谷大学ボランティアセンター「くらしから考える環境問題」 □ 24日(水) 大阪市 / 株式会社マングラム社員研修
- 29日(月) 交野市 / 「温暖化」 □ 30日(火) 京都市 / 龍谷大学ボランティアセンター「くらしから考える環境問題」 交野市 / 「温暖化」
- 31日(水) 岡山市 / 県庁社員研修「温暖化」



# みんなエコろう! 行事案内

問合せ・申込み

**環境市民**

<http://www.kankyoshimin.org>

【TEL】 075-211-3521  
【FAX】 075-211-3531  
【IP電話】 050-3581-7492  
【E-mail】 life@kankyoshimin.org

## 今だ! 始めよう環境市民 春のボランティア説明会

この春、環境市民でボランティア活動をはじめよう! という方を対象にボランティア説明会を開催します。環境市民の活動に関心のある方はもちろんご参加を! 関心のありそうな方にもぜひご紹介ください。

内容(予定): 環境市民のビジョン、活動の紹介、活動スタイルの相談タイム、他

と き: 5月27日(土)

午後6:30から9:00

ところ: ひと・まち交流館 京都 第1・2会議室  
(京都市市民活動総合センター)

参加費: 無料 申込み: 不要

定員: 50人 主催: 環境市民

## 第5回 NPO法人環境市民 通常社員総会開催のお知らせ

NPO法人環境市民の通常社員総会を開催します。2005年度の決算や活動の承認、2006年度の各プロジェクトの活動計画、予定も発表されます。最後は、エコな食べものを用意しての会員交流会を開催いたします。年に一度の会員の交流の場として、また新たに関われそうなプロジェクトさがしの場として、ぜひご参加ください。詳細は次号でお伝えします。

内容(予定):

第1部: 通常社員総会

(議題) 2005年度事業報告および決算報告の承認

2006年度事業計画および収支予算の報告 など

第2部: 2006年度実施プロジェクト紹介

交流会

と き: 6月18日(日) 午後1:00から6:00(時間は予定)

ところ: 京都市環境保全センター(京エコロジーセンター)

(京都市伏見区深草池ノ内町13、京阪電車「藤森駅」下車西へ徒歩5分)

備考: 環境市民の総会には、どなたでもご参加いただけますが、第1部の通常社員総会において表決権を有するのは会員のうち「社員」を登録した方のみです。

## 「社員資格取得申告」についてお願い

NPO法人環境市民定款は、会員のうち社員総会において表決権を有する方を「社員」と定めています。社員になるためには、「社員資格取得申告書」の提出が必要です。

社員資格の取得を希望される方は、次ページのフォーマットに必要事項を記入し、郵送、FAX、E-mailのいずれかで事務局まで送付してください。

※ 2005年度社員の方へ

社員資格は3月31日で期間満了となります。2006年度も社員登録を希望される場合は下記の継続申告書の提出をお願いいたします。

ご不明の点は、京都事務局までお問い合わせ下さい。

NPO法人環境市民定款は、下記URLで読むことができます。

<http://www.kankyoshimin.org/jp/cef/organization/teikan.html>

社員に関する規定は第11～15条です

## NPO法人 環境市民 社員資格取得 / 継続申告書

NPO法人環境市民

代表理事 塚本 圭一 様

枚本 育生 様

NPO法人環境市民の社員資格の取得 / 継続を申告します。

2006年\_\_月\_\_日

住所: 〒 \_\_\_\_\_

氏名: \_\_\_\_\_

電話: \_\_\_\_\_

FAX: \_\_\_\_\_

E-mail: \_\_\_\_\_

問合せ・申込み

**環境市民・滋賀**

【TEL】 077-522-5837  
【E-mail】 cefshiga@kankyoshimin.org

## ひゃくちょう 大津百町館の見学

環大津中町商店街の中に古い町屋を開放して、座敷、水屋、井戸などを見学できる大津百町館があります。大津の町屋を考える会が運営しているこの施設の見学会を行います。

また同日、商店街では町おこしのフリーマーケットが実施されているので、出店者にその想いなどをインタビューします。

と き: 5月27日(土) 午前10:00から12:00

ところ: 大津百町館

大津市中央1-8-13 TEL 077-527-3636

集合場所: 午前10:00に直接大津百町館に集合(JR大津駅から旧大津駅前通を北へ約500m歩き、右手角に洋裁店のある十字路を左折するとすぐにアーケード街となります。)

参加費: 無料 申込み: 不要

問合せ: 環境市民・滋賀 備考: 雨天決行

問合せ・申込み

**環境市民・東海**

【TEL/FAX】 052-521-0095  
【IP電話】 050-3604-6182  
【E-mail】 tokai@kankyoshimin.org  
<http://www.kankyoshimin.org/tokai>

## 環境市民 nagoya cafe

運営に関するミーティングを行います。どなたでも参加できます。ぶちボランティアも歓迎します。お気軽にどうぞ。

と き：5月1日(月) 午後7:00から9:00  
ところ：環境市民・東海 事務局  
参加費：無料 申込み：必要

## 環境小市民 生涯楽習講座

環境と衣食住をマジメに楽しく楽習する講座です。どなたでも参加できます。地産地消していますか？

西尾市は抹茶の生産量が日本一だそうです。京都ブランドに負けないお茶づくりを体感しま専科。運が良ければ茶摘みも体験できるかも？ 碧南市も「みりん」に「ソース」と食文化あふれる、あなどれないまちですぞ。

毎回少人数ですが懲りずにお早めにお申し込みください。

### 「西尾市でお茶作り体験」

と き：5月2日(火) 午前8:00から12:00  
ところ：愛知県西尾市 集合場所：名鉄米津駅  
解散場所(予定)：稲荷山公園 参加費：500円  
定員：10人 申込み：必要  
備考：米津駅から稲荷山公園まで歩きます。安全で動きやすい服装で、水筒など各自で必要なものは準備してください。

### 「碧南市で食文化体験」

と き：5月24日(水) 午前8:00から午後4:00  
ところ：愛知県碧南市 集合場所：名鉄碧南駅  
参加費：500円 定員：10人  
申込み：必要  
備考：コミュニティバスで市内数か所を見学・堪能します。  
共催：碧南市民環境会議

## ぽっとらっくばーてい

毎月第3水曜日、マイカップと一品を持ち寄り、楽しいひと時を過ごします。ぜひお友達(まだ会員でない方)を、

お誘いいただきご参加ください。昼下がりにお立ち寄りいただいてもOKです。

と き：5月17日(水) 午後7:00から9:00  
ところ：環境市民・東海 事務局  
参加費：無料 申込み：必要

## シンポジウム

### これからの「CSR購入」について考える

企業に関するさまざまな事件が起こっている現在、組織の社会的責任に個人(社員)はどうかわるか、企業にとって「CSR購入」の領域はどこまで及ぶのか、という課題があるのではないのでしょうか？ この問題に関心のある方、ぜひご参加ください。

と き：5月16日(火) 午後2:00から5:00

ところ：大阪 NPO プラザ会議室

大阪市福島区吉野4-29-20

発題者：尾崎 力氏(NPO 法人 NPO 政策研究所 理事)

枚本 育生氏(環境市民 代表理事)

田村 太郎氏(NPO 法人 多文化共生センター 理事)

早瀬 昇氏((社福)大阪ボランティア協会 事務局長)

参加費：1000円/1人

定員：40人(先着順)

申込み：必要

問合せ：(社福)大阪ボランティア協会・NPO 推進センター  
〒553-0006 大阪市福島区吉野4丁目29-20  
大阪 NPO プラザ内

TEL：06-6465-8392 FAX：06-6465-8393

E-mail：ccc@osakavol.org

主催：CSR を応援する NPO ネット

※環境市民もこのネットワークの発起人です

## 『だいすき京都 環境市民の遊びかた 暮らしかた』 取り扱い書店のお知らせ

1月に発行したライフスタイル提案本『だいすき京都 環境市民の遊びかた 暮らしかた』は、京都の魅力を伝えるとともに、地域にあった暮らしの楽しみ方を提案する本です。

事務所からの直販の他、一部書店でも取り扱われています。また、お近くの書店から取り寄せていただくことも可能です。書店でISBNコードとタイトルをお伝えください。また、ホームページには、読者のみなさんからの感想やスタッフの編集後記も掲載しています(今後、随時追加予定です)。ぜひ、ご覧ください。

<http://www.kankyoshimin.org/jp/hotnews/daisuki.html>

また、取り扱っていただける書店も募集中です。詳しくは事務局までお尋ね下さい。

■タイトル：大好き京都 環境市民の遊びかた 暮らしかた

■ISBN：4-99028740-1

■発行所：特定非営利活動法人環境市民

## 取り扱い書店一覧

### ■京都市内

- 旭屋書店 京都本店(近鉄フラッツ6階)
- 大垣書店 本店(北大路) / 北大路ビブレ店 / 高島屋店 / 京都ファミリー店 / 烏丸三条店 / 二条店 / 五条店 / 岩倉店
- 紀伊国屋書店 MOVIX 京都店
- ジュンク堂書店 四条店 / BAL 店
- ふたば書房 京都タワーブックセンター(京都駅前) / 京都駅八条口店(京都駅前) / 御池ゼスト店
- 三月書房(京都市中京区寺町二条上がる)
- きりん館(京都市左京区・百万遍)
- 山科書店 RACTO-B 店(京都市山科区)

### ■大阪府

- ブックファースト梅田店 / ○ジュンク堂 難波店 / ○大垣書店 高槻店

### ■愛知県

- ブックセンター名豊 鳴海店(名古屋市緑区)
- ブックセンター名豊 緑店(名古屋市緑区)
- ブックセンター名豊 刈谷店(刈谷市)
- \*上記3店とも、近日店頭販売開始予定

### ■東京

- 青山ブックセンター / ○ジュンク堂池袋店 / ○八重洲ブックセンター
- 書肆アクセス <http://www.bekkoame.ne.jp/~much/access/shop/>
- 京都館 <http://www.kyotokan.jp/>

### ■大学生協書籍部

- 京都市内 京都大学 / 京都精華大学(画箋堂) / 同志社大学 / 立命館大学
- 京都府外 岡山大学 / 滋賀大学



今回、裏千家のお家元である千宗室さんに対して、お話を伺う機会に恵まれました。千宗室さんは環境市民の初期からの会員でもあります。環境市民も今年14年目を迎えています。これまでずっと会員を続けていただいている千宗室さんに思いを語っていただきました。

#### ◆環境への思い

**千氏**：裏千家のホームページを拝見すると、「21世紀は環境の世紀」と書かれていました。お家元の環境への思いをおうかがいできますでしょうか。

**千氏**：生まれ育ったのが、四季折々の風情が風と共に渡ってくるようなところですのでその素晴らしさをぜひ残して行って欲しいという思いがあります。これは私たち茶道の根幹にも通じるものがありますから、大切にしていきたいと思っています。

**千氏**：環境が壊れているというのは人間の心のあり方が反映していると考えています。お家元が書かれたものを読ませていただくと、共感するところがたくさんありまして、よく似た感覚をお持ちなのかなと思っています。

**千氏**：人が活動している限り、最善の方法はありません。環境を守るということは居心地がよいようにすることでもあります。しかし、それは私だけに居心地がよいということではなく、みんなが少しずつ譲りあうという気持ちにならなくてはいけないわけです。

**千氏**：環境団体というのは自分たちの想いがありますし、なければ続けられないのですが、我々が正義であるというふうになってしまうとまずいですよね。人様に言う前に、自ら行動しながらいい

方法を探していくという方がむしろいいのかな、と思っています。

環境問題というのは、すべての人間、生き物にかかわることですから、敵をつくる運動ではないですね。味方をつくって、いろんな方たちがいていい、違うところはあっても一緒にやれるところをつくっていくということなのかなと思います。

#### ◆社会に夢が持てない時代

**千氏**：最近好ましく思われるグループがあります。自分たちの家を建てるために、国内に木を植える。家を建てる時にはその木を切る。その木を使ったら、切ったところにまた木を植える。その木が大きくなったところにまた家を建てる。そういう長い目でみるということには実に夢があるな、と思いました。環境を守るということ、関心を持つということはやっぱり夢を持つ、ということではないでしょうか。

**千氏**：私は、現代社会の問題は夢がないことじゃないかと思っています。こういう地域にしたい、まちにしたい、そういう思いをいだけなくなったことが、この社会をおかしくしている原因ではないかと思っています。

**千氏**：寒くもないのにコートを持ってきて、寒いんだからあなた袖通しなさい。それほどおなが減っていないときに、いや、あなたは空腹のはずです。

携帯電話の新機種が出る。手に入れてふと横をみると、もう新機種のカタログが出ている。自分が欲しかった携帯を手にした瞬間、もう盛りを過ぎたものになっている。

豊かさというのは、不必要なことまでおせっかいに教えてくれるということかもしれないですね。でもそれが自由経済社会を発展させてきたという面もあります。経済の発展によって、環境が悪くなったかもしれないけど、反面、生活が豊かになったからこそ環境に目がむくようになったとも言えます。

**千氏**：ドイツで、環境とか、社会問題への動きが盛んになったきっかけとなった本で、エーリッヒフロム『TO HAVE OR TO BE』というのがあります。現代人は多く持つことに幸せを感じ、どんどん消費し、次から次へ持ち替えなさいというようになってきている。そういうふうには利他的なことに価値観を置いて、それだけでは充足できなくなってしまっている。ケインズも自由主義経済というのはある一定まではいいけれど、それ以上は心して変えなければいけない、という趣旨のことを言っています。豊かになったことによって人間の幸せや向かうべき方向が見えなくなった。このことはいつも考えておくべきことだと思います。

### ◆地球の自然のすばらしさ

千氏：私は、ナショナルジオグラフィックの愛読者です。読んだ後、家族の目に触れ易い所に置いておきます。淡いポリシーはあるけれど何かに向かっただけです。写真が多くて、ぱらぱらみているだけかもしれないけれど、子どもたちが何か感じてくれるんじゃないか。毎月1ページでも眺めて未来を生きる時の記憶に残ってくれればと思っています。

枚本：地球の自然のすばらしさは、私が動く大きな力になっています。人から言われてやるのではない。我々がこうしているからしなさい、なんてことはしたくない。やっていることを、いろんな人におもしろいな、やってみたいな、と提供いただけたらという感じですね。

### ◆種から芽が出て育つように

千氏：信仰の無い人でも神棚を不要なものとは思わないでしょう。私は環境市民が社会生活、市民生活の中の仏壇や神棚のような存在であったらと思います。私は、毎日お勤めをさせていただいております。たとえば、おばあちゃまの命日。手を合わせなさいと言わなくても、孫が仏壇をみておばあちゃまのことを思い出せばよろしいですね。環境問題は早急になんとかしないとイケない。でも実際問題として、性急にやってしまうと反発や逆効果が出てきてしまうこともある。自発的に取り組もうという気持ちが子どもたちの心に芽生えてくるのが大事だと。よそから成長した木を持ってくるのではなく、実生、土の中の種から芽が出て葉が出て育っていく、そういうことが大切だと思います。

枚本：環境市民という名前をつけたときにちょうどそういうことを考えていました。

千氏：（環境市民のロゴの）葉っぱのマークかわいいですね。

枚本：ありがとうございます。我々も環境を大切にしたい市民として育っていきたくて、今自分がそうだということではなくて、むしろそういう人間になっていきたいということなんです。

### ◆季節の移ろい

枚本：ところで、家元は、1年は24節気が基本である、と書いてらっしゃいます。最近ではだんだん、春と秋が短くなってきている感じがします。もともとお茶は日本に入ってきて茶道として発展してきた。ところが日本の季節の移ろいが変になってきている。茶道との関係ではどう思われますか。

千氏：新暦と旧暦を合わせて使うとよいと思っています。私は一つの趣向として旧暦を使っています。確かに季節の移ろいは変わってきているかも

しれません。ただ、これをどうにかしてもとに戻そうと思ってもできないでしょう。もっと長い時間で考えてみたら、私たちが知っている基準で春が短くなった秋が短くなったといっている、他に何かあるのかもしれない。今なりの四季の移ろいを楽しむべく工夫するのが私たちの仕事と思っています。茶の世界でできることはまずそれではないでしょうか。

枚本：そういう季節の移ろいをちゃんと感じるようになっていかないとイケないですね。私たちは環境NGOなので科学的な観点も大切ですが、一方で感性という部分も大切にしないとおかしくなる。

千氏：季節を楽しむという心をもてる教育が必要ではないかと。親から子どもに、または先生から生徒に。とりあえずそこからはじめたらよろしいのではないですか。季節を楽しむことは、季節を味わうことです。

枚本：今日はどうもありがとうございました。

### 千宗室さん プロフィール

昭和31年 京都生まれ  
平成14年12月 裏千家16代家元継承

平成3年(社) 京都青年会議所 理事長  
平成5年(社) 日本青年会議所近畿地区協議会 会長  
平成16年(社) 日本YPO 会長

現在、京都芸術センター 館長、(学) 京都造形芸術大学 芸術学部 歴史遺産学科 教授、同志社大学 経済学部 客員教授、(社) 日本心理学会認定心理士、(財) 禅文化研究所 顧問

多数の著書の内、「六角形の部屋一悩みのひととき」角川書店、並びに「おいしい台詞」小池書院は日本図書館協会選定図書になっている。他に「ほおづえついで」京都新聞社、「母の居た場所」中央公論新社等。



取材場所：重要文化財「今日庵」の外観



格差社会から脱却する

20  
3冊

巻頭

8冊

98

格差社会から脱却する

2冊<sup>注</sup>

1冊

0冊

注

95

80

格差社会から脱却する

第六回

格差社会からの脱却

文／環境市民代表理事 枚本育生

連載

青き星 碧い風

注 注 巻頭  
毎冊 毎冊  
冊 冊

この連載の奇数回では、世界や日本の豊かな自然を描き、偶数回では日本社会や NGO への提案を載せていく予定です。

みんな集まれ!

# わしっわしっ ひろば

あなたと  
つくる  
ページです

5月のテーマ:

## あなたのエコスポット

寒くもなく暑くもなく、ゴールデンウィークもあるし、新生活の疲れも出てくるし……。忙しい毎日の中でホッとひと息つきたくなるのが5月では? そこで、みなさんにとって癒える場所(エコスポット)を募集しました。

開園日:土曜・日曜

開園時間:午前10:00から午後5:00 入園無料

### エココミ湯ニケーション

日常生活で、ふと煙突を見つけると「パブロフの犬」のごとく銭湯の暖簾をくぐって47年になる。小学生の時、銭湯の息子が同級生だったことが、今でも自慢のひとつでR。銭湯こそ「エココミ湯ニケーション」である。

#### ●燕湯(つばめゆ)★★★★☆

昔は朝5時から営業していたが、今は6時~20時の営業。建物や雰囲気は、伝統的な「東京銭湯スタイル」を維持している。富士山の絵もまた格別である。お湯の温度は熱めなので、銭湯初心者は心して入るべし。最寄りの駅 JR 御徒町(東京都台東区)から徒歩5分程度。

ネットで調べると、愚の骨頂。銭湯好きなら自力で調べて育蔵。

(P.N 八丁堀江戸文化研究会 常任理事 銭湯育蔵)

### 鳥取市河原町にある霊石山

名前は少し怖いところですが、とても素敵な山です。頂上からは鳥取市街が見渡せ、その先に鳥取砂丘、日本海をみることができます。鳥取市は人口20万人のまちですが、市街を少し出れば美しい田園地帯と豊かな緑を見ることができます。今の時期はちょうど山桜がところどころみられます。霊石山ではそういった鳥取市の自然を一望できます。まちや田んぼの景色は、夜になると美しい夜景に変わり、空には数え切れないほどたくさんの星が輝きます。夏になれば、日本海にイカ釣り漁船の漁火を見ることができ、暖かく穏やかな気持ちにさせてくれます。そこにいて、物思いに耽っているだけで、忙しい時間や嫌なことを忘れさせてくれる。そんなエコスポットが鳥取にはあります。(P.N みつし)

霊石山への交通:山陰本線鳥取駅から日ノ丸バス智頭行きで20分、稲常下車、登山口まで徒歩15分

### 木のぬくもりは我が家の憩いの場

私にとってのエコスポットといえば、我が家の居間から外へとつながる小さな木の縁台。ベンチよりも少し長いですが、外にある幅の狭い縁側という感じです。洋風のウッドデッキというより「昔のおばあちゃんちの縁側」!家を建てる時大工さん自らの手で作ってもらいました。縁側といえばひなたぼっこ。我が家には庭はほとんどないのですが、そこに裸足で出て、子どもと夕日を眺めたり、隣の畑のおばあちゃんとおしゃべりしたり。おばあちゃんからはよくほうれん草や人参など無農薬野菜を頂いて、そのおいしいこと! 市販のフツーの野菜と段違い。甘くて苦みがないんです。土を洗うのは面倒でもその美味しさを思えば手間も何のその。そして木の縁台の下の砂利で子どもは集中して遊びます。子どもは石が大好き。スコップでバケツに入れたり、山を作ったり。すぐに飽きてしまう電動のおもちゃよりよほど長く遊んでくれますよ! その間、私は有機紅茶と好きな雑誌でのんびり。(P.N 匠の母)

### 鳥たちもお気に入りの園

私のエコスポットは自宅から歩いて10分程の所にある「桂坂野鳥遊園」です!! 山の裾に広がる池とその周りの環境を取り込み、野鳥観察を目的として作られた所で、四季折々、沢山の野鳥が訪れ、ゆっくりと過ごす様子を楽しむことができます。(去年の春にはカワセミを見ました★) 木で作られた温かなかわい建物の中で、全面ガラス張りの大きな窓から見る景色に癒されます。散歩の度に立ち寄るエコスポットです。園内は緑に溢れ、ちょっとした散策にもぴったり♪(P.N ばえむ井)

#### 桂坂野鳥遊園

所在地:京都市西京区御陵北大枝山町

交通:阪急電車桂駅西口 1515より市バス西5系統 桂坂小学校前下車徒歩5分

7月号のテーマは、  
「今年の夏の計画」です。

募集中

ボランティア、海に山に川辺、まちのお祭り、子どもと虫捕り、サイクリング、エコクッキング……この夏どんな過ごし方をしますか? あなたの夏の計画、楽しみにしていることを教えてね。

読者の皆さんとのコミュニケーションを通じてよりよい紙面づくりをめざしています。ニュースレターへのご意見、ご感想もドシドシお寄せください。ニュースレター編集部まで、右記の方法でお送りください。

→ ニュースレター編集部まで、メールかFAX、郵送でお送りください

《《《 締め切り:5月31日(水) 必着 》》》

● E-mail ●  
newsletter@kankyoshimin.org

● FAX ●  
075-211-3531

〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル 呉波ビル3階  
NPO 法人環境市民 みどりのニュースレター編集部 宛

環境市民のウェブサイトからも投稿できるようになりました!

●環境市民ウェブサイト URL <http://www.kankyoshimin.org>  
《トップページ》→《ボランティアひろば》→《掲示板一覧の「みんな集まれわいわいひろば」》と順にクリックしてください。

## 編集後記

【編集部】(五十音順)

有川 真理子 飯田 康道 上松 健太郎  
風岡 宗人 加藤 弘典 久保 友美  
坂本 皆子 鈴木 郁 千葉 有紀子  
寺西 孝一郎 西田 裕紀子 松村 知樹  
安江 晃子 山形 七日 山田 岳  
藤本 芳一(デザイン・レイアウト)

編集を終えて……

日頃は環境首都コンテストの事務局を担当しています。特集の編集、執筆を通して、プロジェクトの1年をふりかえることができたとともに、コンテストの複雑な内容を読者にわかりやすく伝えることの難しさも改めて実感しました。読者のみなさんの率直な声をいただければ幸いです。

(風岡 宗人)

次号  
予告

みどりの  
ニュースレター  
No.157  
2006年  
6月号

現在  
編集中!

特集:持続可能な社会とは

持続可能な社会とは具体的にどんな社会なのか? 環境市民で行われているプロジェクトを通して考えます。

# 今月のありがとう!

目立たないところでも、  
お力を貸してくださった方々に、  
感謝をこめて。

## 4月号ニュースレターの発送

金川 達也 / 窪井 千鶴子 / 久保 浩  
平良 一樹 / 二松 康 / 藤田 知幸  
南村 多津恵 / 山下 年文 / 山本 祥子  
山本 房代

## ボランティア説明会広報協力

大塚 千夏 / 川島 奈美 / 久保 浩  
深澤 かおり / 安江 晃子

《五十音順・敬称略》

ご協力、ありがとうございました!

## 新会員の方々

3月11日から4月11日

生駒 隆彦 深澤 かおり  
尾上 夏子 本田 裕美  
越野 薫 藤見 昌憲  
白江 喜之 村中 梨砂  
橋本 清勇 山下 年文  
橋本 直子

## 寄付

3月11日から4月11日

伊藤 緑 枚本 育生  
井上 和彦 永橋 為介  
岩塚 多嘉子 藤本 芳一  
風岡 宗人 堀 孝弘  
下村 委津子 水野 武夫  
SKIPメンバー各位 (五十音順、敬称略)

ありがとう  
ございました!

新入会員  
\*  
INTER  
VIEW

## ■山下 年文さん (3月16日入会)

ボランティア講座の紹介で環境  
市民を知り、自転車チームで活動中。「普  
段、当たり前だと思って何気なくやっている  
ことを、もう一度見直して、少しでも環境問  
題を改善できたらよいと思います」。

## 環境市民に入会しよう!

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。  
「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください!

### ■ 会員特典

- 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
- 行事などの参加費を割引させていただきます。
- 会員専用ブログ「ボランティア広場」への参加ができます。
- 環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

### ■ 会費の振込み方法

- 郵便振替の振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・  
送金内容事項をご記入の上、「年会費+入会金」をご入金ください。  
(※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要)
- ご入金を確認後、最新のニュースレターと会員バッジ、入会記念と  
してポストカードをお届けします。

### 会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	—
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	—
特別助成会員	50,000円	—
終身会員	一括 80,000円	—
営利法人会員*	1口 50,000円	50,000円
非営利法人会員*	1口 10,000円	2,000円

\*年会費は一口以上

~あなたのご協力が環境市民を支えます~

♥ 寄付をする... 住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先 【郵便振替】口座番号：01020-7-76578 加入者名：環境市民

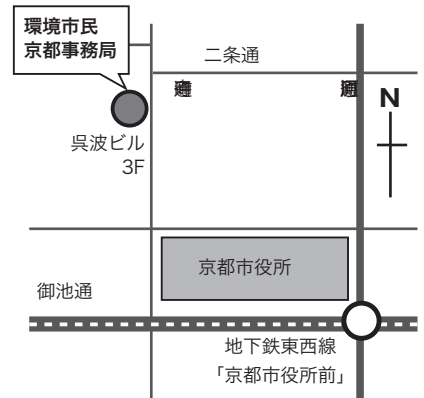
(発行) 特定非営利活動法人 環境市民 (代表) 塚本 珪一・枚本 育生 (発行人) 堀 孝弘  
【TEL】075-211-3521 【IP 電話】050-3581-7492 【FAX】075-211-3531  
【E-mail】life@kankyoshimin.org 【URL】http://www.kankyoshimin.org  
〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル呉波ビル3階 (月から金 午前10:00から午後6:00)

### 環境市民・東海

【TEL&FAX】052-521-0095 【IP 電話】050-3604-6182  
【E-mail】tokai@kankyoshimin.org 【URL】http://www.kankyoshimin.org/tokai/  
〒451-0062 愛知県名古屋市中区花の木1丁目12-12 花の木 AOIビル4階

### 環境市民・滋賀

【TEL】077-522-5837 【E-mail】cefshiga@kankyoshimin.org  
〒520-0046 滋賀県大津市長等2丁目9-12 笠文彦気付



本誌の無断複写・複製・転載を  
禁じます。

「環境市民」  
登録商標 第4809505号

この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して  
古紙配合率100%再生紙に、大豆油インキで印刷しました。

印刷：(有) 糺書房



## 環境市民

Citizens Environmental Foundation

21世紀  
地球を、地域を、生活を、  
持続可能な豊かさに

